

団体名 沖縄県立糸満高等学校	連絡先 TEL：098-994-2012 Eメール： http://www.itoman-h.open.ed.jp/
--------------------------	---

1 実践事項 「総合的な探究の時間の目標や特質に応じたコロナ禍の中の平和学習」

2 実践内容

本校は創立76年目の伝統校である。総合的な探究の時間「怒濤タイム」(各学年1単位)を中心に、本校独自の特色ある教育プログラムを展開している。ESDの視点を取り入れた体験的・探究的な学習の実践として、1年次に「理科野外探究学習」、2年次に「平和ウォークラリー」、3年次に「社会野外探究学習」を実施している。今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、2年次は、6月に実施予定だった「平和ウォークラリー」の代替としてICTを活用し「平和」をテーマにした発表会を実施した。

3 実践目標

70数年前に私たちの住む地で起こった出来事を学び、体験者のインタビューを行うことで、戦争の愚かさや平和の尊さを実感するとともに、平和は与えられるものではなく、生徒たち自身が創り上げていかなければならないことに気づき、これからどうすべきかを考える機会とする。

4 育成したい資質・能力

- (1) 他者の話しを聞き、情報・知識をまとめる。(聞く力)
- (2) 紙芝居・朗読文作成を通して、自分の意見・考えをまとめる。(書く力)
- (3) 平和発表会を通して、他者に伝えるノウハウやスキルを育成する。(話す力)

5 使用するICT機器及びアプリケーションソフト

タブレット端末(iPad)・パソコン・スマートフォン(生徒個人所有)・プロジェクタ(電子黒板)

6 ICTを活用する場面とねらい

- (1) 調べ学習を行う際にインターネットの活用は必須であるうえ、多くの情報の中から、自分が必要とする情報を取捨選択して活用するスキルを育成する。
- (2) 発表やプレゼンにおいて、聞き手にわかりやすく説明するために視覚情報を活用することも有意義であるが、普段の生活でなかなか活用する場面が少ないため、今回はプロジェクタを利用した発表を体験させる。

7 成果



普段からタブレットやスマートフォンを活用してはいるが、SNSやゲームアプリの使用が中心の生徒も多く、レポートや資料作成での活用という点では良い機会となった。紙芝居や朗読文作成においても有効に活用できたようであり、内容の濃い力作が多くみられた。また、単調な発表のみでは聞き手の集中力が途切れることもあるが、スクリーンに作成した「Power Point」や紙芝居を投影することで、生徒の聴く態度も良好であった。

8 次年度に向けての改善点

この後の総合的な探究の時間において、「0学期宣言」等、調べ学習と発表の機会が続くため、資料のまとめ方、聞き手を意識した発表の仕方・伝え方を更に工夫できるように意識付けを行っていきたい。今後は、他のIT機器の活用も検討していきたい。